

令和8年度 港区立南山幼稚園経営計画

1 目指す幼稚園像

本園は、令和8年度に創立92年を迎え地域に親しまれている歴史のある幼稚園となっている。総園児数の中に在籍する外国籍の幼児も多く、通園している範囲も広い。隣接する南山小学校との交流、連携が活発に行われ、幼小連携において充実した教育活動を積み重ねている。また、近隣の都立六本木高等学校や六本木中学校、麻布十番商店街や町内会とは、周年行事以来地域との交流の輪が深まっている。地域で行われる行事には、多くの子どもたちが参加するようになり、100周年につながるための教育活動へ歩み始めている。

教育課程における幼稚園教育目標を達成するための基本方針の3つの柱を中心に、港区教育ビジョン、港区学校教育推進計画及び港区幼児教育振興アクションプログラムと併せて、幼稚園教育において育みたい資質・能力を明確にした「南山幼小連携プログラム」「港区版 架け橋期のプログラム」、改善を重ねている「年間指導計画」、幼稚園の特色を文化として継承するために作成した「豊かな3年間のためのプログラム」を活用し、小学校以降の教育を見通した幼稚園3年間の充実した教育を推進している。そして、「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども」を目指し、その姿を育てていく。

また、港区学校教育推進計画より①幼児が安全で安心して過ごすことができる幼稚園②幼児が生き生きと楽しく遊び、学ぶことができる幼稚園③保護者・地域に信頼される幼稚園を幼稚園経営の視点におき、幼児の学びを導く教育活動を工夫して展開する。そして、これらの教育活動を充実させることで幼児・保護者・地域・教師が共に笑顔あふれ、つながることで心豊かな毎日になるように幼稚園経営を進める。

目指す幼稚園像

◎幼児・保護者・地域・教師の笑顔がひろがる幼稚園

2 幼稚園の教育目標

人権尊重の精神に基づき、幼稚園・家庭及び地域社会の連携を基に、心身ともに健康で自ら主体的に遊びや生活に取り組み、よく考え、様々な人との関わりを深め、豊かな学びを創り出す幼児を育成するため、次の目標を設定する。

○げんきな子 ○よくかんがえる子 ○なかよくする子

3 目指す教師像

教職員が互いに充実した幼稚園の教育活動と幼児の成長に対して、喜びや充実感を味わう日々を

過ごすために、互いに力を合わせチームとしての力を発揮するために、目指す教師像を以下のとおりとする。

自分でよく考え、主体的に行動し、豊かに学ぶ教師

- 一人ひとりの幼児の心に寄り添い、丁寧な指導を心掛け、指導力向上のために努力する。
- 自分でよく考え、見通しをもち主体的に行動する。
- 互いに実践を語り合い、学び合い高め合うとともに、効率的・効果的なチームの一員となる。
- 誠実性を表しながらコミュニケーションをとり、保護者・地域から信頼される。

4 中期的経営目標と方策(令和8年度～令和10年度)

- (1) 教育目標「げんきな子 よくかんがえる子 なかよくする子」を目指し、「年間指導計画」や「南山幼小連携プログラム」、「港区版 架け橋期のプログラム」、「豊かな3年間のためのプログラム」の検証・実践に基づき「教育計画」を作成し3年間の教育活動を確実に展開する。
- (2) 南山の教育を創造し、幼児理解に努めながら幼児の成長に喜びを感じ、教職に携わる者として、柔軟性と責任、情熱をもって教育にあたる誇りのある教職員集団となる。
- (3) 港区立南山小学校と連絡調整をしながら意図的・計画的に施設の活用をするとともに、交流活動を深め教育活動を充実させる。また、園舎・園庭・保育室は、幼児の生活に即して整備や改善をする。
- (4) 幼稚園を地域に開き、親しまれることで、地域の方が園の教育のよき理解者となってくださる区立幼稚園となることを目指す。そのために、地域への情報発信を工夫するとともに、地域の方の教育力を教育活動に取り入れたり、地域の行事に携わることで信頼関係を強固なものとする。また、学校運営協議会を推進する中でいただいた意見を活かし、教育内容の充実を目指す。
- (5) 港区立幼稚園のよさをアピールし、区立幼稚園の入園者の増加に向けて改善を行う。
- (6) 東京すくわくプログラム、令和7・8年度港区研究奨励園の研究を推進し、教育活動の充実と教員の指導力の向上を目指す。

5 令和8年度重点目標

幼児、保護者、地域が幼稚園がつながる園運営を行い、笑顔が広がることで心豊かな生活をつくる。その際、ウェルビーイングの考えをもとに「やってみよう」「なんとかなる」「ありがとう」「ありのまま」という視点を持ち、一歩、一歩確実に進み「幸せなとき」を目指す。

○幼児にとって

- ・教職員がチームとなり力を合わせ、教育活動を展開する。教職員がそれぞれの立場で一人ひとりに寄り添うことで、幼児を多面的に理解し、成長につながる援助の方向性を明らかにする。
- ・学級や学年間の交流を大切にした保育で、幼児たちが自然な形で遊びの豊かさや生活の仕方が伝わり、文化となっていく南山幼稚園の特色、そのよさを継承していくようにする。

○保護者にとって

- ・幼稚園と保護者がコミュニケーションを取り連携を強化するとともに、保育参加やドキュメンター

ション、映像やその日の出来事ニュース等、様々な方法で幼児の様子を伝え、共有することで子育ての楽しさや充実感が感じられる日々となるようにする。また、幼児の興味や関心に保護者の方も共感しながら楽しめるようにする。

・幼稚園での活動において、保護者間のコミュニケーションづくりをし、親睦が深められようにする。

○教職員にとって

・計画時に教職員間で共有した各学年の指導の観点、教材選択を基に、自信をもち指導を行うようになる。

・園内研究の充実により、専門知識を豊かにし、意欲をもち学ぶ姿勢から自分を高め、自身の指導力の向上を目指すようにする。

・人権感覚を磨き、多様性、共生を意識した視点で一人ひとりに寄り添う指導を行うようになる。

・働き方改革を推進し、ワークライフバランスを保ち、健康で明るく、意欲的に過ごす。

以上を踏まえ、以下の項目を実施する。

(1) 教育の質の向上

- ・学年会におけるPDCAサイクルを通しての振り返りや教育内容の共有化
- ・日々の報告・連絡・相談の徹底
- ・OJTによる指導力の向上
- ・チームで進める教育活動（指導の方向性の共有化）の充実
- ・教材開発と3年間の指導の明確化
（アプローチカリキュラムの検証と遊びや経験の伝承内容の把握）

(2) きめ細やかな幼児への指導

- ・チームで行う異年齢の関わりの充実
- ・複数で行う丁寧な保護者対応
- ・様々な立場から行う教育内容の発信の工夫
（ブログ、ドキュメンテーション、x、学級だより、園だよりその他）

(3) 働き方改革における教員

教育内容の質、教員自身の指導力の向上を目指し、効率性・効果性を考えた園運営を4つの視点から実施することで働き方改革を推進する。

- ・勤務時間における時間感覚の意識（予定を把握・結果の共有）
- ・園務分掌の実施に向けての工夫
（計画性と見通し、やることリストの共有化、二人体制での相談・助け合い）
- ・効果的・効率化を図るシステムの構築（週案作成、教材準備に関わる工夫他）
- ・用務委託、介助員、講師、会計年度職員、NTと様々な職員の役割とその日の職務の把握による効率的な達成。

6 その他

- (1) 外国籍の幼児や海外から帰国した幼児など、言語・文化の異なる幼児も含め、一人ひとりの個性に応じた指導を充実し、多様性と共生を尊重する態度や姿勢を育む。
 - ・ネイティブティーチャー、自動翻訳機、翻訳タブレット等の機器、必要となった翻訳メモ、配付物の作成等、伝達事項では丁寧な関わりを心掛ける。特にネイティブティーチャーの活用により英語によるコミュニケーションの機会等を充実させる。
 - ・各自が英語のみならず、多言語に興味をもち、言葉のみならず、表情や関わり方などで、それぞれが持ち味を生かしたやり方で全ての幼児、保護者とのコミュニケーションを充実させる。

- (2) 南山小学校、六本木中学校や都立六本木高校との連携、麻布十番商店街、宮村町会、いきいきプラザとの緊密な連携を推進し、地域の幼稚園としての信頼が得られるようにする。
 - ・南山小学校5年生、1年生を中心とした交流活動、小学校との合同行事を引き続き充実させ、互恵性のある教育活動を継続させる。
 - ・六本木中学校の職場体験や都立六本木高校の生徒との畑での交流を引き続き充実させ、豊かに人との関わる体験をさせる。
 - ・麻布十番商店街の方との味噌づくり、こいのぼりや七夕飾りを届け飾っていただくこと、麻布十番商店街の広報誌「十番だより」への教育内容の発信、いきいきプラザの高齢者との関わり、秋祭りの宮村町会の山車や冬のもちつきへの参加の呼びかけなど、園と宮村町会を中心とした地域との関わりを継続、充実させる。

- (3) 港区学校教育推進計画「重点事業」の取組に基づき、「国際理解教育の充実」「ICT を活用した学びの充実」を強化する。また、みなとエコアクションに基づき、資源の節約と環境教育の充実を図る。
 - ・外国籍の幼児の国を紹介し、様々な文化や言語に触れる機会をつくり、多様性と共生への理解を深める。
 - ・保育内容にネイティブティーチャーによる歌やゲーム等を取り入れ、日常的に英語に触れる機会をつくるとともに、計画的な活動内容の実践を行う。
 - ・新たな ICT 機器の導入により、活用できることを考え、有効に使用していく。
 - ・タイミングを見逃さず、計画的・継続的に自然に関わる環境をつくり、季節に応じた経験が豊かに展開できるようにする。1年間のビオトープと栽培物の環境整備とを行いながら、生き物や植物の把握を園内環境図にまとめる。

- (4) その他
 - ・「人権教育指導計画」「道徳教育指導計画」を基に、教職員全体で共通理解しながら指導し、幼児なりに考え、より良い行動が身に付けられるような生活を送る。また、幼児の様子をチームで把握するとともに、年に3回幼児、保護者に対するアンケートを行い、いじめに類する事案の未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。
 - ・子育てサポート保育の拡充に伴い、サポート保育の内容を見直しながら、実態や状況に応じて改善し、より充実した内容にしていく。